

法人名	社会福祉法人白百合会
-----	------------

施設名	白百合乳児保育園
-----	----------

発表者名 (職名)	大村 悠花 (保育士)
--------------	----------------

住所	横浜市神奈川区亀住町9-5		
----	---------------	--	--

TEL	045-461-5031	FAX	045-453-3271
-----	--------------	-----	--------------

メールアドレス	sirayuri.-akaiyane@cyber.ocn.ne.jp		
---------	------------------------------------	--	--

URL	http://shirayuri-nyuuji.com/		
-----	------------------------------	--	--

定員	103名	職員数	33名
----	------	-----	-----

発表の概要・内容

【2回目の1歳児クラス】

昨年度20人の1歳児を2グループに分け、12人を3人で担任。子どもたちのいやいやに対する関わりはともも大事で、大人によってこじれることがないように、純粋な子どもの気持ちを尊重する保育がしたいと思っていた。

【子どもの姿から気づいたこと】

○子どもの表情から

0歳児クラスで、「うんちしてる、くさーい」という声かけを注意されたことがあった。それ以来、そのような声かけには気をつけるようになってきた。1歳児になって、「うんちを教える子が少ないよね」というクラス内での話があって、「うんちしたら言ってね」と子どもには言っていたが、うんちをして、替えてもらうときの子どもたちの表情が暗いと気づいた。→言いやすい環境だったか？を考えた。うんち出て良かったね、すっきりしたね、と声かけを意識して変えると伝えてきてくれる子どもが増えた。

●子どもの姿を言葉をかけることで変えるのではなく、子どもが表現しやすいような雰囲気かどうか？大人の見方を変えていく。

○何でこんなことを？

シンクでおしぼりを水浸し→子ども用のキッチンをリアルにつくる。

開き戸を頻繁に開けて指を挟みそうに→おもちゃのレンジを作り、見立てができるように。

●子どもの行動には理由がある。何をおもしろがってそうしている？そこから保育を広げていく。

「この子の面白さ」ひとりひとりに共感し、そこを広げてくことで好きな遊びができ、そこで遊び込んでくれることで、保育士は好きな遊びが見つけれない子にも集中して一緒に遊ぶことができる。またその子のおもしろがっているところに気づくことで、さらに保育を広げることが出来る。

○子どもは最後まで受け止めることで、切り替えようとしてくれる。

思うようにならないとすぐに物を投げようとし、止められることの多かったHくん。→「○○したかったよね、でも投げたら危ないよ」ではなく、「○○したかったよね」だけで受け止め続けた。“この先生とやらってみようかな”と言う姿や“できたよ”と意欲が出てきた。

●「怒りたくなってしまうよね」という大人の心からの共感と受容的な言葉が、子どもたちの切り替えてまたやってみようとする力になる。

【大人も重要な環境】

環境によって、子どもたちの表情や成長は大きく左右されることに気づいた1年だった。どんな表現をする子がいても、その子にはその子の理由があるという前提で、「どうしたらそれは満たされるのか」と考えて環境を変えていくこと、大人の見方を変えることで、よりその子の持っている力を引き出すことが出来ると感じた。

メモ
